

第1873号

2006年08月23日

### 「マツダロードスター パワーリトラクタブルハードトップ」を発売

—荷室を犠牲にしない世界初<sup>※1</sup>の電動ルーフシステムを備えたライトウエイトオープンスポーツカー—  
マツダ(株)は、昨年フルモデルチェンジした「マツダロードスター」に、トランクスペースを全く犠牲にしない画期的な電動ルーフシステムを装備した「パワーリトラクタブルハードトップ」モデルを加え、全国のマツダ系およびマツダアンフィニ系販売店を通じて本日から発売する。



マツダロードスター VS パワーリトラクタブルハードトップ (プレミアムパッケージ装着車)

マツダ独自の電動ルーフシステムを搭載した「マツダロードスター パワーリトラクタブルハードトップ」は、2005年8月の発売開始以降、2005-2006日本カー・オブ・ザ・イヤーをはじめ世界各国で30以上の賞を獲得し、国際的に高い評価を受けている3代目「マツダロードスター」のプレミアムモデルである。

「マツダロードスター パワーリトラクタブルハードトップ」は、ロードスターならではの「人馬一体」の走る歓びと、オープンスポーツカーとしての、より一層の快適性を高次元で両立している。操作しやすい電動開閉システムを備えた軽量のハードトップを組み込みながら、ソフトトップモデル同様にルーフをホイールベース間のシートバックスペースに収納するという、世界初<sup>※1</sup>の構造を採用。ロードスターならではの「人馬一体」感を追求した動力性能はもちろんのこと、ひと目でロードスターとわかるデザインを実現したこのモデル特有の新規性やプレミアム感がもたらす「視線を浴びる楽しさ」が、新たな「Fun」をロードスターに与えている。

開発主査の貴島孝雄は次のように語っている。「1989年の初代モデルから一貫してマツダが追求し続けるロードスターの真髄は、馬と乗り手が心を通い合わせて走る『人馬一体』という言葉に象徴されています。ロードスターの新しい仲間であるこの「パワーリトラクタブルハードトップ」モデルは、ドライバーがクルマと会話をするようにお互いの動きを確認し合いながら走る『人馬一体』の走る歓びを、より気軽に、そしてスマートに実感させてくれる『Lots of Fun』なクルマです。独創的なアプローチによって誕生した『ロードスター パワーリトラクタブルハードトップ』が提供する日常のあらゆるシーンで人々の感性に訴える『楽しさ』をより多くのお客様に体験していただきたいと願っています。」

※1 2006年6月マツダ調べ(ロードスターセグメント内)

## ■「マツダロードスター パワーリトラクタブルハードトップ(RHT)」の主な特長は以下の通り

### 1) Fun to drive: ロードスターの不変の価値、「人馬一体」

-「人馬一体」の走りを実現する小型軽量の高剛性ボディを造り込むため、ルーフ部を軽量コンパクトにするとともに、電動ルーフの採用により拡大した開口部に対応して、重量増を抑えながら効果的な補強を施し、ソフトトップモデルと同等のボディ剛性を確保している。

- ルーフを車両重心に近いシートバックスペースに収納することによって50:50の理想的な前後重量配分を確保、ライトウェイトスポーツカーに欠かせない低いヨー慣性モーメントを実現した。
- ボディ剛性をはじめとする各種のモデル特性に適合するようサスペンションシステムを最適化、ソフトトップと変わらない人馬一体の走りを実現。

## 2) Fun to own:ひと目でロードスターとわかる個性

- 低く流れるようなショルダーラインを持つ独特のサイドシルエットなど、初代モデルから継承するロードスターらしいスタイリング。
- クローズ時のルーフの流麗で引き締まったラインにより、小粋な印象のコンパクト・キャビンを実現。
- ニューデザインのリアデッキに呼応してリアフェンダーを力強い造形とし、スタイリングの最適なビジュアルバランスを追求した。
- ロードスターのスポーティさにハイクオリティな印象を与える、クロームメッキのエクステリアパーツ。

## 3) Fun to use:より快適なオープン走行のために

- ルーフをホイールベース間のシートバックスペースに収納し、トランクスペースをまったく犠牲にしない世界初<sup>※1</sup>の電動ルーフシステムを採用。また、ルーフの開閉操作は世界最速<sup>※1</sup>の約12秒で完了する。
- 誰にでも簡単に操作でき、使う人に安心感と信頼感を与えるルーフシステムを搭載。クローズ走行時は風騒音を効果的に遮断し、プレミアムモデルにふさわしい快適で上質なキャビン環境を実現している。
- 新しいリアデッキ形状に合わせて最適化したエアロボードの採用により、ソフトトップモデルと同様の心地よいオープン走行を実現。

## ボディカラー

新色の「ストームブルーマイカ」と、既存のカラー体系から「カッパーレッドマイカ」、「トゥルーレッド」、「ギャラクシーグレーマイカ」、「サンライトシルバーメタリック」、「ブリリアントブラック」の計6色が選択可能。

## パッケージオプション

RHT のプレミアム性を高めるパッケージオプションとして、日本刀のような美しい輝きを放つ17インチ高輝度塗装アルミホイールをキーアイテムとした「プレミアムパッケージ」を RS RHT、VS RHT (6AT)に設定。

### ■「ロードスター パワーリトラクタブルハードトップ(RHT)」の車両本体価格は以下の通り

機種	エンジン	駆動	変速機	車両本体価格(円)	
				消費税込	消費税抜
ROADSTER RHT	2.0L DOHC	2WD(FR)	5MT	2,400,000	2,285,714
ROADSTER RHT			6AT	2,500,000	2,380,952
RS RHT			6MT	2,700,000	2,571,429
VS RHT			6MT	2,700,000	2,571,429
VS RHT			6AT	2,800,000	2,666,667

- 上記車両本体価格に加えて、購入時にはリサイクル料金 10,600 円が別途必要。  
(ただし、メーカーセットオプションの SRS サイドエアバッグシステムを装備の場合、リサイクル料金は 10,910 円。)
- プレミアムパッケージ装着車は消費税込み 140,000 円(消費税抜 133,333 円)アップ。

### ■「ロードスター パワーリトラクタブルハードトップ(RHT)」の主要諸元は以下の通り

仕様 (グレード)	ボディタイプ	2ドア・オープン				
	ルーフタイプ	パワーリトラクタブルハードトップ				
	機種名	ROADSTER RHT	RS RHT	VS RHT		
	エンジンタイプ	2000DOHC				
	トランスミッション	5MT	電子制御 6AT (アクティブ マチック)	6MT	6MT	電子制御 6AT (アクティブ マチック)

車名・型式		マツダ・CBA-NCEC				
寸法	全長 × 全幅 × 全高	3995mm × 1720mm × 1255mm				
	ホイールベース	2330mm				
	トレッド (前/後)	1490mm/1495mm				
車両重量		1130kg	1140kg	1140kg	1130kg	1140kg
乗車定員		2名				
エンジン	型式	LF-VE 型				
	種類	水冷直列 4 気筒 DOHC 16バルブ				
	総排気量	1998cc				
	最高出力	125kW(170PS) / 6700rpm (MT 車) 122kW (166PS) / 6700rpm(AT 車)				
	最大トルク	189N・m (19.3kg-m) / 5000rpm				
	ボア × ストローク	87.5mm × 83.1mm				
ステアリング	種類	ラック&ピニオン式				
サスペンション	懸架方式 (前/後)	ダブルウィッシュボーン式 / マルチリンク式				
ブレーキ(前/後)		ベンチレーテッドディスク / ディスク				
タイヤ(前/後)		205/50R16 87V	205/45R17 84W	205/50R16 87V <sup>※2</sup>		
ホイール		16 × 6 1/2J	17 × 7J <sup>※2</sup>	16 × 6 1/2J <sup>※2</sup>		
10・15モード燃費 (国土交通省審査値)		13.4km/L	11.8km/L	13.0km/L	13.0km/L	11.8km/L

※2 メーカーセットオプションのプレミアムパッケージを装着した場合、17インチ高輝度塗装アルミホイールと205/45R17 84Wタイヤの組み合わせとなります。

■「ロードスター パワーリトラクタブルハードトップ」に関する詳細は以下の通り

<http://www.roadster.mazda.co.jp/>